

首都圏中央連絡自動車道 江戸崎橋(下部工)工事

番号	質問箇所	質問事項	回答
1	図面186/232 A1橋台土留め工詳細図(その2)	土留工数量集計表において、『継手部補強板 PL-140×19 28枚, PL-80×19 56枚』と記述されています。 鋼矢板継手箇所数は、 $N=(39+64) \times 1\text{箇所} + 7 \times 4\text{箇所} = 131\text{箇所}$ となります。したがって、PL-140×19の継手枚数は、131枚、PL-80×190は、262枚となります。数量の確認をお願いします。	2月21日付け質問書に対する回答において、確認中としておりましたご質問について回答いたします。 下部工設計図に誤りがありました。 なお、上記については交付図書を訂正いたします。
2	図面185/232 A1橋台土留め工詳細図(その1)	A1橋台土留工詳細図において、側面図及び断面図に『切断』と記述されています。この図面の記述通り、アンカ一部の鋼矢板を切断するということでよろしいのでしょうか。ご教授ください。	2月21日付け質問書に対する回答において、確認中としておりましたご質問について回答いたします。 下部工設計図に誤りがありました。 なお、上記について交付図書を訂正いたします。
3	図面185/232 A1橋台土留め工詳細図(その1)	アンカ一部鋼矢板の撤去寸法は、断面図に記述の通り『516mm～5870mm』と考えてよろしいですか。 ご教授ください。	質問番号2の回答のとおりです。
4	図面185～186/232 A1橋台土留め工詳細図(その1, 2)	アンカ一部鋼矢板の引抜長は、鋼矢板打設長から上記の撤去延長(516～5870)を差し引いた延長と考えてよろしいですか。ご教授ください。	質問番号2の回答のとおりです。
5	図面186/232 A1橋台土留め工詳細図(その2)	鋼矢板切断延長において、A1橋台 土留工数量集計表では『切断延長L=39.6m』と記述されています。 切断延長を計算すると、 $L = \text{頭部連結}(64\text{枚}+7\text{枚}) \times 0.4\text{m}/\text{枚} \times 1\text{箇所} + \text{アンカ一部}(39\text{枚} \times 0.4 \times 1\text{箇所}) = 44\text{m}$ となり、土留工数量集計表(39.6m)と異なりますので、数量の見直しをお願いします。	2月21日付け質問書に対する回答において、確認中としておりましたご質問について回答いたします。 下部工設計図に誤りがありました。 なお、上記については交付図書を訂正いたします。
8	図面204～205/232 A2 橋台土留め工詳細図 (その1, 2)	A2橋台土留工詳細図において、側面図及び断面図に『切断』と記述されています。これは、アンカ一部の鋼矢板を切断するということでよろしいのでしょうか。ご教授ください。	2月21日付け質問書に対する回答において、確認中としておりましたご質問について回答いたします。 下部工設計図に誤りがありました。 なお、上記について交付図書を訂正いたします。
9	図面205/232 A2 橋台土留め工詳細図 (その2)	アンカ一部鋼矢板の撤去寸法は、断面図3-3通り『550mm～3640mm』と考えてよろしいですか。 ご教授ください。	質問番号8の回答のとおりです。
10	図面204、205/232 A2橋台土留め工詳細図(その1, 2)	アンカ一部鋼矢板の引抜長は、鋼矢板打設長から上記の撤去延長(505～3640)を差し引いた延長と考えてよろしいですか。ご教授ください。	質問番号8の回答のとおりです。
16	特記仕様書24-14-3(P33)金抜き設計書B-5頁	率計上工事に関する記述で、『単価表の番号(1～57)……』と記述されています。 ただし、金抜き設計書を見ると、番号54が『率計上に関する事項』となっており、特記仕様書と金抜き設計書で整合がとれていません。確認のほどよろしくお願ひします。	2月21日付け質問書に対する回答において、確認中としておりましたご質問について回答いたします。 特記仕様書に誤りがありました。 なお、上記について交付図書を訂正いたします。